

ふれあい センター

何気ない日々感謝

「降り注ぐ太陽をいっぱい受けて、土と共に生きる。こんな素晴らしいことはありません。小さな命を預かっての1年が始まります。朝夕の手入れは大変ですが、夏になり色鮮やかな花



を見ると今までの苦勞が癒され、秋になると野菜たちが季節の味を楽しませてくれます。健康だからこそ、こんな楽しみ

が持てることに感謝するばかりです」とのお便りが届きました。差出人は町内にお住いの大畑直子さん。プランターには綺麗に花が植えられ、菜園は手入れがされて、野菜が元気に育っていました。「菜園の手入れをしていると、ご近所の方が声をかけてくれるのがありがたい」と言います。大畑さんの温かなお人柄に、引き寄せられてしまうのかも。素敵なお手紙と優しい笑顔、本当にありがとうございました。

中学生廃品回収



地域との交流や感謝の心を養おうと中学生による廃品回収が6月10日町内一円で行われました。住民の方もこの日のために古新聞などを貯めておくなど協力的です。PTA役員、教職員、生徒たちは、担当地区に分かれ玄関先に出されている古新聞などの回収に汗を流し、学校前では集められた古紙などをトラックに積み込むなどの作業がなされました。留守宅にはお礼状を置いてくるなど丁寧に対応していました。こうして廃品で得た301,920円の収益金は、生徒会活動や部活動などに活用される予定です。

いちごさん、ありがとう

6月26日、ふれあい農園で小学1・2年生のいちご狩りが行われました。前日までは雨模様でしたが、当日は良い天気で、児童たちは葉の隙間から見える赤い大きないちごを見つけると大興奮。農業指導員の佐藤さんから「一人10個まで。いちごを採るときはありがとうを忘れないでください」との説明を受け、いちご狩りスタート。採れたてのいちごを頬張ると「甘〜い。砂糖を舐めてるみたい」との感想が。あまりのおいしさに10個以上食べる子が続出。終了時間になってもいちごへの未練がたっぷり。「スイートコーンやじゃがいもの収穫もあるので、また会いましょう」と佐藤さんから声をかけられ、「いちごさん、ごちそうさまでした」と元氣よく挨拶をして帰っていきま



妹背牛RIMUSE華麗に舞う

6月8日～12日まで札幌市で開催された第25回YOSAKOIソーラン祭りにおいて、妹背牛RIMUSEが華麗な舞を見せました。道内外はもとより、海外からも参加者のあるYOSAKOIソーラン祭り。華やかな衣装を身にまとい、手には鳴子を持ち力強く舞う姿は躍動感にあふれ、見る者に感動を与えます。今年で17回目の出場となった



妹背牛RIMUSE。6年前からは砂川のチームと合同で出場しています。少人数ではありますが、この祭典に出場することを目標に地道な練習を重ね、メンバー全員が心を一つに札幌で素晴らしい演舞と輝く笑顔を見せてくれました。

悲慘な歴史を風化させない



6月15日平成28年度戦没者慰霊祭が妹背牛神社境内の忠魂碑前で執り行われました。参列者全員で黙とうを行い、「悲慘な歴史を風化させないよう、未来を担う子どもたちに語り継ぎ、今日の繁栄と平和の陰には、尊い犠牲があることを深く胸に刻み、「人輝き笑顔あふれるまち」として、妹背牛町を未来につなげていくため、町民の皆様とともに着実に努力を重ねて参ることをここにお誓い申し上げます」と寺崎町長より式辞が述べられました。続いて、遺族や関係者約70名が献花を捧げ、戦没者の冥福を祈りました。

夜の保育所も大好き！

7月8日、妹背牛保育所において、年長児がお泊り会を楽しみました。子どもたちも楽しみにしていた行事で、夕食も自分たちで作ります。メニューは焼きそばと餃子。午前中に買い物へ行き、午後からは夕食の準備に取



り掛かります。包丁に苦戦しながらも食材を上手に刻み、初めての餃子づくりにも挑戦しました。自分たちで作った夕食の味は格別な様子で、あっという間にお皿が空に。その後は宝探し、肝試しに悲鳴を上げ、みんなで花火をして夜のお楽しみ会が終了。大満足の日となりました。

ズンバって楽しい♪

6月21日、町総合体育館においてズンバ教室（町教委主催）が行われました。この日は2回目。軽快なリズムに合わせて楽しそうにステップを踏む12名の参加者。ダンスの中にストレッチの要素を取り入れ声を出しながらダンスを踊り、楽しく体を動かすことができます。声を出しながら踊ることにより脂肪の燃焼効果がより高くなるそうです。1曲10分くらいでラテン系からハワイアンと様々なリズムに合わせて踊ります。運動をしてかいた汗は心地よく、参加者も「楽しく運動できるので次もまた来ます」と積極的です。また、参加者同士の交流や、休憩時には講師の方とも楽しそうに話しをしたりと、健康的で有意義な時間を過ごしました。

